



審美的矯正治療と歯科矯正用アンカースクリューの併用 Aesthetic orthodontics with combined use of orthodontic anchoring screws

日本大学歯学部 総合歯学研究所臨床研究部門・歯科矯正学講座教授
本吉 満

成人を対象とした矯正歯科治療において、歯列不正の審美的改善はもとより、治療中の見た目、審美性に対する要求も強い傾向にある。このことからリングブラケットやマウスピース型矯正装置（以下アライナー）を用いた審美的矯正治療が広く行われている。

一方、抜歯症例においてマキシマムアンカレッジを必要とする症例や、大臼歯の遠心あるいは圧下方向への移動を必要とするような難症例に対して、歯科矯正用アンカースクリュー（以下 OAS）が有効に作用し、現在の矯正臨床において欠かせないツールとなっている。また、OAS の応用により外科処置を併用せずとも、成人においてもある程度の骨格的改善が行えるようになり、患者の負担を顕著に低減することが可能となった。

しかし、成人の難症例に対して用いられる OAS と審美的矯正治療（リングブラケットやアライナーによる治療）との併用は容易ではなく、特に抜歯症例における前歯の舌側移動においては、メカニクスを熟慮し工夫を凝らす必要がある。

一方近年、口蓋への OAS の植立が多く行われるようになってきている。口蓋の植立部位は口蓋歯槽部や、正中口蓋縫合部付近などがあるが、口蓋の正中部への植立については歯根への接触の恐れがなく、さらに骨質が強固であるため、安定した固定を得ることができると考えられる。

以上の観点から今回は、審美的矯正治療と口蓋に植立した OAS を併用した症例を供覧し、効率良く上顎前歯の舌側移動を行う方法について考察する。また、口蓋に植立した OAS の安定性に関わる要因について不明な点も多いことから、口蓋正中部の Cone-beam computed tomography (CBCT) 画像を用いて安定性に関わる要因について検討して得た結果の他、年齢と安定性の関係や、口蓋正中部での適正トルクに関する研究結果について述べる予定である。

略 歴

- | | | | |
|--------|--------------------|------------------|------------------------------|
| 1984 年 | 日本大学松戸歯学部卒業 | 2018 年 | 日本大学歯学部歯科矯正学講座教授 |
| 1990 年 | 歯学博士（日本大学） | 2014、2015、2017 年 | 日本矯正歯科学会大会優秀発表賞受賞 |
| 1992 年 | 日本大学歯学部歯科矯正学講座助手 | 2016 年 | 第1回日本歯科矯正用アンカースクリュー研究会最優秀発表賞 |
| 1996 年 | 米国アラバマ州立大学歯学部客員研究員 | | |
| 2004 年 | 日本大学歯学部歯科矯正学講座講師 | | |
| 2009 年 | 日本大学歯学部歯科矯正学講座准教授 | | |